

大和川付け替え 300 周年記念企画展Ⅲ

つけかえから 300 年

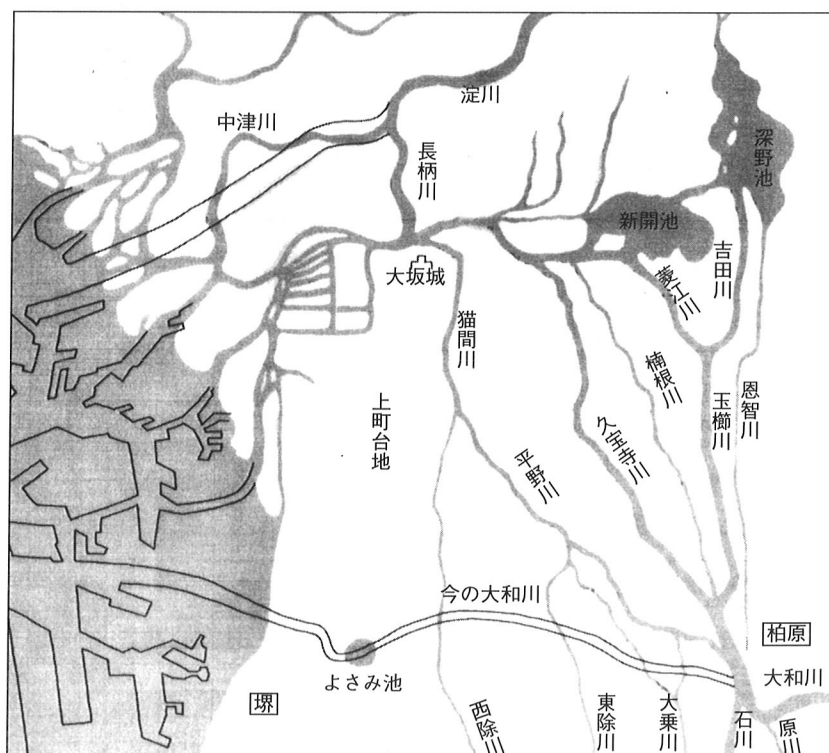
2004 年 9 月 22 日～12 月 5 日

柏原市立歴史資料館

つけかえ前の大和川

柏原市から西に向かって流れている大和川。この大和川は、今から 300 年前に、たいへんな工事によってつけかえられた川なのです。それまでは、何本もの川に分かれて大阪城の近くで淀川に注いでいました。川は水だけでなく、たくさんの土や砂も運んできます。その土は栄養分がいっぱいあるため、田畑を作るのにたいせつな役割をはたします。しかし、それは、洪水を起こすということでもあるのです。洪水によって、たいせつな家や田畑が流されてしまうこともたびたびありました。そこで、洪水の被害を防ぐため、大和川を西へ、海に向かって流れるようにつけかえてほしいという運動がはじまりました。

しかし、つけかえはすぐには実現しませんでした。自分たちの村の近くに新しい川ができるかもしれないと知った人たちが、反対運動に立ち上がったからです。新しい川ができる自分たちの土地が無くなるかもしれない、それまでなかった洪水がおきるようになるかもしれない、などがおもな反対理由です。何度もつけかえが計画され、中止され、つけかえられることに決まるまでに 50 年ほどかかりました。



つけかえ前の大和川

大和川のつけかえ

つけかえ運動をつづけるうちに、洪水が玉櫛川から深野池・新開池周辺だけでおこるようになってきたこと、その間に幕府がつけかえはしないと決定したことなどから、多くの村がつけかえをあきらめるようになったようです。しかし、洪水はなくなるどころかはげしくなるばかりで、そのようすをみた幕府が、とうとうつけかえることを決断したのが元禄16年(1703)のことです。

つけかえ運動の中心となったのは、今米村(今の東大阪市)の中甚兵衛ら農民でした。中甚兵衛は、もとの大和川の川幅や堤の大きさ、そして川底がどれだけ高くなっているかを記録した「堤防比較調査図」や、洪水のときに堤が切れた所を正確に記録した「堤切所付箋図」などを残しています。たぶん、つけかえのお願いに行くときに、証拠の資料として作ったものでしょう。思いつきでつけかえをお願いしたのではなく、たくさんの調査や細かい記録によって、つけかえが必要であることをくりかえしお願いしたようです。その熱意が認められ、中甚兵衛はつけかえ工事のときには手伝いの責任者になっています。その工事のときに着ていたと伝えられる鹿の革で作られた陣羽織が残っています。陣羽織の内側には、3種類の字で「水」と書かれています。工事がうまく終わり、二度と洪水がおこらないようにという願いをこめて書いたものなのでしょう。

工事は元禄17年(1704)2月27日にはじまり、10月13日に完成しています。川幅180m、長さ14.3km、堤防の幅20m以上。この川をつくるために毎日13,000人の人たちが働き、71,503両のお金がかかったとされています。1両を20万円として計算すると、今の140億円ほどになります。

これだけの工事が7ヶ月半ほどで終わっていることにおどろきます。工事が早く終わった理由はいくつか考えられますが、いろいろな藩に競争させて工事をすすめたことも理由のひとつでしょう。また、できるだけ川底を掘らず、堤防を築くだけで新しい川をつくっているのも理由のひとつでしょう。それでも、瓜破と上町台地だけは堅い台地を掘り下げっていますが、これもできるだけ掘る部分を少なくするため、浅香の谷を利用して川を曲げるという工夫をしています。

つけかえ後の大和川

つけかえ後は、もとの大和川の河原は新田として開発され、綿の木を植え、これから作られた河内木綿は全国に知られるようになりました。

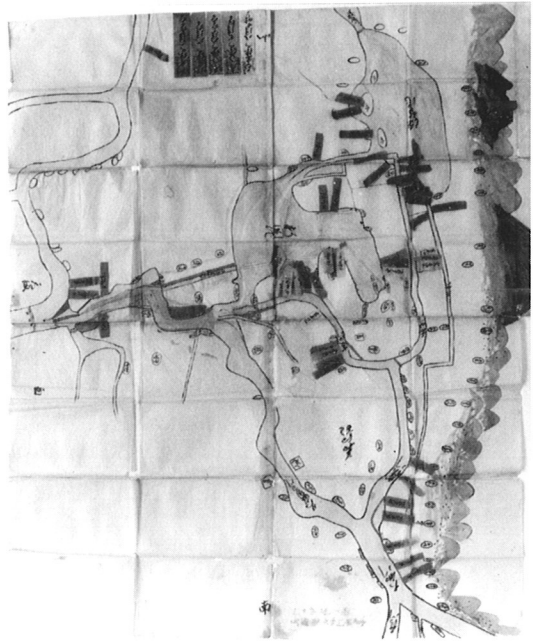
一方、新大和川の周辺では、つけかえに反対していた理由の多くが現実となってしまいました。土地を失った人たち、川の北と南に分かれてしまった村、それまでなかった洪水がたびたびおこるようになった村、港が土で埋まってしまった堺など、迷惑なことばかりでした。

今年(2004年)は、新しい大和川の完成からちょうど300年となります。この機会に、もう1度、大和川の歴史について考えてみてください。



かわちのくにえす
河内国絵図 (N-040710)

つけかえ前の大和川の流れがよくわかる。大坂城の近くで淀川に合流している。



つみきれしよ ふせんず
堤切所付箋図 (N-040711)

堤が切れた所に、色を変えて付箋をはっている。深野池や新開池で何度も堤が切れていたことがわかる。



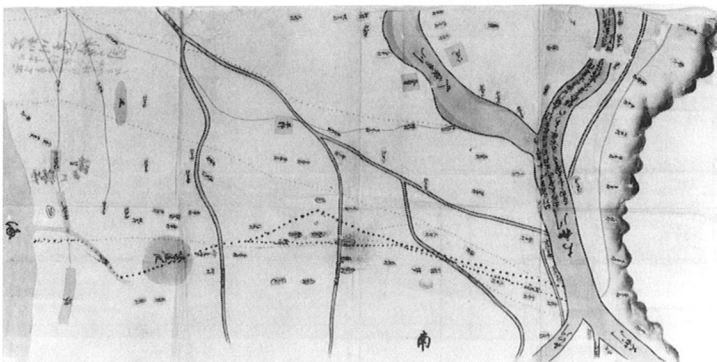
なかじんべ えちやくよう しかがわじんぼおり
中甚兵衛 着用の鹿革陣羽織 (N-040712)

内がわに3種類の字で水と書かれている。



なかじんべ えしやうぞうが
中甚兵衛肖像画 (N-040713)

67歳でお坊さんになった後に描かれたもの。



しんかわ けいかくかわすじひかくず
新川と計画川筋比較図 (N-040714)

新大和川の位置について、5つの案が示されている。天王寺の近くへ流す案もあったことがわかる。

—文化財講演会のおしらせ—

なかくへえ

中九兵衛氏（中甚兵衛十代目）「中甚兵衛の生涯」

2004年10月2日（土）13：30～15：00 柏原市立歴史資料館研修室にて

中甚兵衛の子孫の九兵衛氏より、中家に伝わる史料をもとに、付け替えのために一生をささげた甚兵衛の姿を追い求めていただきます。

新旧大和川流域の7つの博物館・資料館で大和川水系ミュージアムネットワークを結成し、大和川付け替え300周年記念事業に取り組んでいます。

◎大和川水系ミュージアムネットワーク参加館の今後の展示予定

大阪府立狭山池博物館「近世を拓いた土木技術」10月2日～11月28日

八尾市立歴史民俗資料館「大和川つけかえと八尾」10月2日～11月29日

大阪歴史博物館「大和川付け替えと江戸時代の大阪」10月27日～11月23日

松原市民ふるさとびあプラザ「大和川付け替えと松原」11月18日～12月14日

堺市博物館「堺と新大和川」12月4日～1月30日

○大和川水系ミュージアムネットワーク記念シンポジウム

「大和川付け替え300年、その歴史と意義を考える」

2004年11月14日（日）10：00～16：20 大阪歴史博物館4階講堂にて 定員250名

基調講演 村田路人氏（大阪大学教授）、中九兵衛氏（中甚兵衛十代目）

ミュージアムネットワーク代表者による基調報告とパネルディスカッション

申し込み 〒540-0008 大阪市中央区大手前4-1-32 大阪歴史博物館「大和川シンポ」係

往復はがき（1枚で2名まで）で上記まで。10月20日必着。申し込み多数の場合は抽選。

○スタンプラリー

大和川水系ミュージアムネットワークでは、スタンプラリーを開催しています。上記の各館でミュージアムマップを受け取り、各館に設置しているスタンプを4つ集めると記念品を進呈します。スタンプの設置は、各館の大和川関連展示期間中のみです。記念品がなくなり次第、終了とさせていただきますので、お早めにご利用ください。

・このリーフレットは、2004年9月22日から12月5日まで開催する大和川付け替え300周年記念企画展「つけかえから300年」にともなって作製したものです。

・資料の借用・写真の掲載等に、中九兵衛氏のご協力をいただきました。

柏原市立歴史資料館

〒582-0015 大阪府柏原市高井田1598-1 TEL 0729-76-3430